

奥村のり子の
読者ニュース

2017年9月10日 第281号
——奥村のり子生活相談所——
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
☎&FAX 073-427-7121
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



新宮市で医療問題中心に
懇談、さまざまな御意見が

9月4日、新宮市にお住まいの方から看護学校の入試に関する相談があり行って参りました。同時に「和歌山県の地域医療構想についてご意見をお伺いしたい」と希望したところたくさんの方がおいでて下さいました。教職員組合の方を初め年金者組合や新婦人、介護職、元市職員、市議や町議、その上、民青の県委員長や役員の方と青年部長の坂口多美子さんにも同席してもらいました。

地域医療構想とは団塊の世代が後期高齢となる2025年において、どのような医療提供体制を目指すのか、その姿を描いたも

その内容は高度急性期、急性期、回復期、慢性期の各機能について、都道府県が医療圏ごとに2025年の医療需要を基に必要な病床数を算定したものです。和歌山圏域（和歌山市・海南市・海草郡）では2014年の6185床から2025年には4961床に、新宮圏域（新宮市・東牟婁郡）では1043床から459床に半減以上です。県下でもっとも多く削減されるものとなっていきます。

それぞれの地域の状況の分析をみながらしながら、医師数や公的病院の役割や在宅診療を含む地域包括ケアの整備や診療にかかわらない潜在患者数なども考量しながら、地域の要求に応じた医療提供体制のあり方を議論しだれもが安心して住めるまちづくりをすすめられるように

北のミサイル迎撃は困難
米朝に直接対話を促せ！

北朝鮮が6回目の核実験で「弾道ミサイルに搭載する水爆実験に成功」と発表。米朝両国の軍事的緊張が高まり軍事衝突の可能性が強まっています。米朝が軍事力を使えば米軍基地がおおむ日本が狙われるのは必至。全く言語道断な行為です。

アベ政権はミサイル防衛と称し米国製の高額兵器を買わせ、2018年度の軍事費の概算要求は5兆2551億円で4年連続過去最高。今回は「イージス・アショア」2基で1600億円。迎撃ミサイル「SM3」に472億円その他。04年々今年度までの経費と併せミサイル防衛費は1兆8千億円超えます。それでも、弾道ミサイル迎撃は極めて困難。一例上げればイージス・アショアの迎撃の最高高度は1200キロ、北朝鮮の火星12型は2100キロ超まで達し迎撃は不可能。そこで新たな「防衛」能力取得へ際限なき軍拡路線です。

国際社会が対話による解決の動きを強めている中、アベ首相は圧力一辺倒で米国にもけしかけ始める。米外交専門誌は「どれも功を奏していない。安倍のタカ派的な勇ましい言葉も、ますます空虚に見える」と指摘。米政権内では、米朝が軍事力を使えば「信じられないほどの悲劇になる」として対話による解決の模索もあり、今、必要なのは米朝両国の直接対話です。5日の衆参閉会中審査で共産党は「米朝に直接対話を促せ」と追及しました。（編集室）



若者に希望もてる社会を

知人の息子さんがこの春からうつで会社を休んでいましたが、医師も家族も復帰は無理と判断し、8月末付けの退職届を郵送で提出されましたとのこと。まだ32歳。頑張った有名私大の理工学部を出た努力家でした。もう頑張らず、人生色々とおもってほしい。

NHKの元アナウンサー、加賀美幸子さんが著書のなかで、いまの子どもたちへのおもいをつぎのように語っておられます。「世の中大変なんだ。そんな事で生きられないよ」と子どもたちのお尻を叩くより、「気の遠くなる様な時間の流れの中、大変な確率で、今やっと生まれてきたんだよ。生まれてきて本当によかったね」と大人は心をこめて子どもたちに伝えたい」（『ここを動かす言葉』）。



8月、京商連幹部学校で講演

のり子の週刊日誌(主なもの)

- 9月 8日 駅頭いっせい宣伝、ネンリンピックアップ壮行式、回会議
- 9日 グリーン・グリーンプロジェクトボラ
- 10日 紀の川市中村まき事務所開き、会議
- 11日 議会準備、河西事務所無料生活相談
- 12日 議会開会
- 13日 議案調査
- 14日 議案調査、市駅前事務所無料生活相談

「生まれてきてよかったね」と

けれど、雇用不安をあおり、若者を追い込む日本の日本。過労死も後

を絶たない。人間が人材ではなく、ただのコスト(費用)扱いにされている。子どもたち

を絶たない。人間が人材ではなく、ただのコスト(費用)扱いにされている。子どもたち



県下全域で運動を起こして行かなければと強く感じさせられました。

子どもから大人、世代を超えた問題です。みなさん、いっしょにお考え下さい。

(奥村のり子)



党参議院議員
大門みきし

